

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201884		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームハーベスト (1階)		
所在地	静岡県静岡市清水区渋川2丁目14番20号		
自己評価作成日	平成23年10月5日	評価結果市町村受理日	平成23年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274201884&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内の清潔に心掛けている
利用者様に合わせて援助方法を変え実行している(個別ケア)
入浴は1日おきとし入浴の無い日は足浴をして身体の清潔に気を配っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から1本道を隔てた住宅地に立地し、近所には公園や保健福祉センターなどの施設もある。天気の良い日には公園まで散歩するほか、元気な利用者はホームセンターやドラッグストアで買い物することもできる。派手な行事こそ少ないものの、施設内は清潔が保たれて、階段の両側に手すりを設置しており、また屋外にはベンチを数台用意するなど、利用者の立場に立った優しい配慮が感じられた。特に排泄ケアについては重点的な取り組みをおこなっている。利用者のオムツが汚れて過ごすことの不快さを十分に理解し「排泄を待たせない」「トイレで排泄できる」という取り組みがみられた。調査の際には、97歳の利用者も健康的に過ごしている姿が印象的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は廊下等に貼りだしてありスタッフに意識をもって実践してもらえるようにしている。	理念は目の届きやすい位置に見やすく掲示されている。今後は職員が協力して「地域に密着した事業所」という目標を理念に謳うことも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域の防災訓練等にも参加している。また散歩などしている時にあった人には挨拶や世間話をしている。小中学生の体験学習も受け入れている。	近所の人とは、洗濯物を干していても気軽に挨拶できるほどの関係ができています。ボランティアの訪問も定期的に行われていて、安来節や日本舞踊の披露を楽しんでいる様子が記録からも視認された。	自治会から年間の事業計画を案内される関係ができていて、清掃活動への参加など相互の交流が深まっていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員の会合等で話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練の様子を会議の日に言い気付いた点など意見をだしていただき次回の訓練の参考にしている。	昨年からは2ヶ月に1回の開催が概ね達成されている。防災訓練を兼ねて運営推進会議を開催したところ避難に必要な具体的な意見が出て、環境改善につながった例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度は区役所に出向き連絡は密にしている。地域担当の包括支援センターとも密にしている。	手続きの際には市役所や地域包括支援センターの窓口で直接出向き、相談にのってもらうこともある。介護相談員の受入には至っていない。	地域での事業所連絡会等に参加し、事業所間の交流が活発になる事が望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは実践されている。	チャイムで音を知らせることにより、日中は扉をすべて開放することが実現されている。スピーチロックについては研修で学んだことを活かし、ミーティングや現場で気づいた時に諭すようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ちホーム内で虐待がないように注意を払っている。虐待ではと疑問に思った時にはスタッフで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部のスタッフは学ぶ機会があったが多くのスタッフにはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を掛けて十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置してあるが投稿されることはなかった。	家族には月次報告を通じて生活の様子を報告している。意見箱を設置したが意見は少ないため、現在はアンケートの実施についても前向きに検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を設けて意見を聞いている。	年2回個人面談を実施し、毎月2ユニット合同での全体ミーティングを実施している。全体ミーティングでは職員一人一人から意見を聞き取り、積極的に運営改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年2回本社と話し合う機会が設けられているので意見をのべている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・外の研修に参加できる仕組みができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一社内ではあるが他ホームとの交流研修というものがあり勉強の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に合わせた声かけやケアにより本人とのよい関係を作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築くために家族との会話を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族と話し合いを持ち十分な支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る家事等を利用者様と共に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された折には利用者様の近況を伝え問題を共に取り組めるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が面会に来やすい環境を整えている。	家族と連携して見守りをする中で、段階的に一人で外出できるようになるためのプログラムを実施している。既に1名の利用者が見守りなしで外出できるようになった成果もあり、現在も実施中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲良く交流できるように支援しているつもりだが利用者様の個性もあり関係は複雑です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族との関係を大事にして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを汲み取れるように取り組んでいる。	普段から「よく見ること」を大切にすることで「普段との違い」が分かることを旨としている。利用者をよく把握できるように、職員が別のユニットでの業務を一時経験する取り組みもおこなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やカンファレス・モニタリング等により把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを定期的に行い家族とも話し合い見直しをしている。	担当制を取り入れているが、計画作成時にはユニットの職員が集まって、皆で意見を出し合っている。モニタリングは計画作成担当が主となって意見を聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に細かく記入し情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りその人に応じたサービスを提供している。受診の付き添い代行等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。 家族がいけない時は職員が付き添う。	協力医にとどまらず、他の医療機関からも往診がおこなわれている。訪問看護が毎週来所し24時間の協力体制もできているため、カテーテルを留置しているなど医療処置を要する利用者も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはすべての情報を病院側に提供して早期退院が出来るよう協力している。普段より病院関係者との関係づくりはしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「医療に関する確認書」を作成してありそれに添った形で対応する。	医師や訪問看護との連携のもと、終末期についての受け入れの準備をしている。「医療に関する確認書」には、想定される様々な状態に対して事前に同意を得ることにより、重度化した際にも即座に対応できる体制が視えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒や熱発・意識消失等のマニュアルはあるが定期的に訓練はしていない。急変時は24時間たいおうの訪問看護師に連絡して指示に従う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。	防災委員が中心となって防災訓練や、非常時の備蓄に取り組んでいる。防災訓練は年2回以上おこない、夜間を想定した訓練や近隣の住民の見学を得た訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。利用者様のお部屋に入る時も必ず声を掛ける等の配慮をしている。お部屋にいらっしやらない時も声かけをしています。	「館内は全てプライバシー空間である」という理解のもと「家族的であるが家族ではない」と職員に周知している。居室に入るときには必ず声掛けしていることからプライバシーを保護している実践が覗えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の表出できない方がおおいので行動や表情を見逃さないよう声を掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の決まりや都合を優先してしまうこともあるがなるべく希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭きや食後の食器の片付け等ができる人をお願いしている。無口で食事をされていることが多い。	手作りの創作メニューを提供している。調査時の昼食は豆腐とレンコンのすりおろしハンバーグで、食感もよかった。職員は利用者から好みを聞き取りながらメニューを考案しているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回表に記入しているため確保できるように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じた方法にて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行けない方もトイレでの排泄を基本としている。	トイレで排泄できることを旨として重点的に取り組んでいる。そのため、たとえ状態が重くなったとしても、職員が移乗・移動を介助することでトイレでの排泄が継続できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操やフロアの歩行訓練等を促し運動による効果の期待、又献立に根菜類を多く取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴できる日は基本的には1日おきとしている。時間はなるべく希望に添うようにしている。	利用者ごとに湯を毎回替えていて、マットも利用者ごとに交換している。シャワーチェアや踏み台、入浴用車いすが整備されADLが低下しても残存機能を使って入浴できる取り組みが視認された。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマや寝具の清潔の保持に心掛けています。布団や毛布・枕は週に1回くらいのペースで陽にあてている。昼寝などもできるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に変更があったときなどはとくに症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩の好きな人には時間が許す限り外に出るようにしている。食べることも楽しみごとの1つなのでおやつや献立にも工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブ等声を掛けて戸外に出る機会を作っている。	近所には複数の散歩コースがあり、ホームセンターやドラッグストアまで歩いて買い物に行く事もできる。毎週2回は買い物に付き添う機会が設けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により買い物に同行し買い物を楽しんでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いには特に気を使っている。居間や自室では温度調節に心掛けている。居間には季節に応じた飾り付けをしている。	共用空間は広く、大きな窓からの採光が豊かで温かみを感じる。1階では毎朝利用者と職員と一緒に掃除することが日課となっているため、掃除の時間になると利用者が自発的に準備してくれるほどである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席とお茶を楽しむ時では変わる時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅にいたときに使用していた物の持込をしている。ミシンや仏壇等	居室には足踏みミシンを持ち込む利用者がいたり、模型を作成する利用者がいたりして従来の趣味や習慣が継続できる取り組みがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立者用のトイレ・車椅子用のトイレ・男性用の立ったまま排尿できるトイレ等工夫されている。手すりの設置により多少歩行が不安定な方でも安全に歩行が出来るように工夫されている。		